

台風 23 号円山川災害現地調査に参加して

上原 秀樹

はじめに

生公連（生活関連公共事業推進連絡会議）は 11 月 9 日、台風 23 号で堤防の決壊などの被害を受けた円山川とその支川である出石川周辺の被害状況について現地調査を実施、私も参加しました。

現地はいまも自然の猛威と被害のすごさを残しており、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災されたみなさんにお見舞い申し上げます。

さて、現地調査は、円山川左岸 9.6 km の堤防欠損箇所、円山川右岸 13.2 km の破堤箇所、出石川左岸 5.4 km の破堤箇所、六方排水機場の 4 箇所について実施しました。また、河川を管理している近畿地方整備局豊岡河川国道事務所を訪問、副所長から状況説明を受けるとともに懇談しました。全建労豊岡支部四役のみなさんとも懇談しました。

1. 円山川左岸 9.6 km の堤防欠損箇所（豊岡市^{ひといち}一日市）

現場は円山川 9.6 km 付近の堤防で延長約 50 m が欠損した箇所です。

調査時点では、仮復旧が完了し欠損箇所近傍の堤防天端においてボーリング作業が進められていました。この箇所は、堤外地側の一段低いところに国道があり、堤内地側が高くなっています。その国道より高い部分が欠損となったようで、ブロックマットで覆われていました。また豊岡市の下水処理場の入り口があり、堤防天端から国道に出る坂路が上流に向かって設置されていたようです。坂路は復旧されていましたが、堤内地側にある下水処理場の門は壊れたまま残っていました。



（一日市 県道から見る）

2. 円山川右岸 13.2 km の破堤箇所（豊岡市^{たちの}立野）

調査時の状況は、盛土、大型土嚢、矢板による二重締め切りが完了し、ボーリング調査を実施していました。この箇所の下流側には橋梁（立野大橋）があり、橋桁には流木がぶ



(立野 川裏から見る)

つかった跡が残っていました。橋梁のすぐ下流には水位観測所があり、その水位の記録は堤防天端高さを越えたところまで記録していたようです。また破堤箇所の上流には樋門があり、破堤した堤内地側には農道への坂路があったようですが、破堤により無くなっていました。

堤内地側はほとんどが水田のようでしたが、民家と会社の事務所が数件あり、マスコミがよく

取りあげていた民家は一階部分が完全に壊され流されていて、激しい水流が押し寄せたのがよくわかりました。

3．出石川左岸 5.4 km の破堤箇所（出石町鳥居）

調査時の状況は、盛土、大型土嚢、矢板による締め切りが完了していました。この箇所は堤防の上流側は山付けとなっています。また、農業用水の取り入れ口があったのか、かなり古いヒューム管が堤内地側に転がっていました。その農業用水沿いに堤内地側に一気に濁流が流れたような状況となっていました。下流側には橋梁があり橋梁には多くの流木が溜まり、水道管のような添架物が脱落していました。橋梁直近の道路沿いには店舗があったようですが、跡形もなくなっていました。付近のアパートは一階の天井付近まで浸水した跡があり、土壁の民家は 2m ぐらいの高さまで壁が流され、畳と床板をめくり上げた民家や基礎が大きくえぐられた民家が水害の恐ろしさを物語っていました。



(鳥居)



(鳥居 全壊となった農家)

4．六方排水機場

排水機場は、被害はありませんでしたが、多くの流木が流れ着き除塵機では処理しきれないような大木もあったようで、敷地内に山積みされていました。

5．国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所

円山川、出石川を管理している豊岡河川国道事務所を視察し、全建労豊岡支部長の友田さんら支部四役のかたと懇談し、河川と道路の混合事務所のため同時に非常体制にはいると本当に人が足りないこと、そのような状況のなか3~4日は寝ていない職員も出ていること、事務所、出張所が浸水したため現場に出ることができなかったこと、職員が少ない中でマスク対応に人手をさかれ災害復旧業務に支障が出ていることなど当時の状況について話を聞くことが出来ました。

また、栗山副所長と狩野総務課長とも懇談を行いました。職員の健康管理などできることは行っていること、今回の災害にたいして職員一丸となってがんばっていることなどについて分かりましたが、肝心の河川の災害に関する質問には「分からない」との回答でした。

今回の調査は、豊岡市と出石町の破堤箇所を中心に実施しました。

破堤の原因究明は別に行われると思いますが、一つは集中的な降雨（上流で225ミリの）に絶えられなかったことです。4時間で水位が5センチも上昇し、立野で計画高水位（8.16センチ）を上回る8.29センチに達したということです。二つ目はこの計画高水位+50センチの暫定堤防が軟弱地盤や予算などの理由で整備されず、近畿の中でも整備率はワースト1だったということです。

また、当日の災害対策でも、職員（正規）以外の委託契約職員、非常勤職員などが体制に組み込まれず組織活動に不徹底をきたしたり、使命から少数の職員に過酷な勤務を課したりするなど、公務職場の問題点も明らかとなりました。

ひとまず調査を終え、バスでの移動中にあらゆる箇所で越水した状況が見られました。

また、帰路の電車の車窓からも円山川沿川の広い範囲で、泥で覆われた水田や水田に横たわる流木等が見られました。また、京都府に入ってから由良川の支川である牧川の護岸がいたるところで壊れている状況を目の当たりにし、今回の台風23号被害の大きさをあらためて感じました。

現在調査委員会が設置され、学識経験者を交え、破堤の原因究明と対策工法が検討されていいですが、国民の命と暮らしを守る観点で、防災のあり方を町づくりとあわせ広く住民の方の意見を聞きながら進めてほしいと思います。

参加者からの感想

今回参加された方の感想を紹介しましょう。調査団報告は別途行われると思います。

想像以上にひどかった。丈夫に堤防を整備するべきと、痛感した。

初めて被災現場を見学し、被害のすごさを実感した。もう少し何とかならないのか、と思った。

地盤が悪く整備出来ない理由があるにせよ、地方に予算を回し整備するべきだ。

破堤を見たのは初めて。凄いことになっていると思った。これから整備計画を作るに

あたり、必要性等興味がある。是非、住民の為に作ってもらいたい。

遊水地を作るなど人間と財産を守る見地で街・村づくりを考えるべきだ。

災害現場を見学するのは初めて、堤防が決壊しなければ床下浸水で済む。しかし、今回決壊し床上浸水となった。耐えられる堤防の整備が必要だ。

台風の被害は他人事と見ていたが、今回体験し、身近に感じた。堤防もさることながら、他の河川より川幅が狭く感じられる。河川の幅も見直すべきではないか。

災害現場をこんな早い時期に見たのは初めて。交流集会後だったので、街づくりを含めて考える必要があると感じた。堤防強化、ダム建設以外でも考えていかなければならないのではないか。

道路なので水害の災害現場を見るのは初めて。洪水の被害は恐ろしい。堤防が完成形でないのを早急に何とかするべきだ。

驚くべきは、副所長（事務）のひきつった顔だ。とても国民本位の奉仕者とは言えない。円山川は、地盤が厳しいとは言え暫定堤防を許してきたことを反省すべきだ。（うえはらひでき・建政研関西支所理事）